

「科学博物館で学ぶ」

担当教員 谷本 勉

コース概要

日程 2019 年 8 月～9 月

場所 関東地方の科学博物館等

参加人数 30 名

コースのねらい

科学博物館を、環境問題等を学ぶための大学外の現場（フィールド）として自在に使いこなし、生涯学習の場となるようにすることを目的とします。

内容

「科学博物館で学ぶ」は、グループ学習ではなく、個人参加を原則とします。参加者がそれぞれ立案した計画に従って学習していきます。具体的には、各地の科学博物館等でどのような参加型の企画・セミナーが行われているかを調べ、参加するイベントを決定し、学習していきます。

例年 6 月中旬の土曜日の午後、最初の説明会を行います。ここで詳細な実施要領を解説します。その後、できるだけ夏期休暇に入る前に事前学習として担当教員と相談しながら、参加する学習内容についての理解を深めて、学習計画書を作成します。

学習計画に際しては、1 つのテーマが 4 時間以上のものを 1 日分の学習として認め、それ以下のものを半日分として、合計 4 日分の学習をすることを義務づけています。多くの場合 8 月中の土・日を何度か使うことになり、夏期休暇の各自の過ごし方の中にきちんと学習計画を組み込んでおくことが特に重要になります。

今年の主な参加企画には次のようなものがあります。

8 月 2 日「国立科学博物館」：学習のテーマ「銚子沖に生息するスナメリ観察会」

8 月 3 日「国立科学博物館附属自然教育園」：学習のテーマ「大学生のための菌類学入門」

8 月 3、10 日「千葉県立中央博物館」：学習のテーマ「化石の模型を作ろう（1）（2）」

8 月 18 日「国立科学博物館筑波実験植物園」：学習のテーマ「ミャンマーの水草から日本の水草の起源を探る」

8 月 22 日「千葉県立中央博物館」：学習のテーマ「たてものの中の化石を探そう」

8 月 31 日「千葉県立中央博物館」：学習のテーマ「古脊椎動物学入門」

9 月 7 日「栃木県立博物館」：学習のテーマ「カレーに変身！米物語～土ってすごイネ～」

9 月 8 日「神奈川県立生命の星・地球博物館」：学習のテーマ「きのこの観察と同定」

学習を終えて

[銚子沖に生息するスナメリ観察会]に参加して

スナメリの生息地や、ストランディングについて学ぶ。ストランディングの原因として、私達人間が関わっている件も多い。大学でも学んだ海岸のごみが非常に多いことについて改めて対策が必要であること、またその海岸のごみは川からのものが多いことを初めて知った。

ストランディングしたスナメリやその他の種について、死亡個体を捨ててしまうのではなく資料として使うことで、これからの研究に役立てることが出来る。実際に海からスナメリを観察し自然に触れたことで、改めて保護について考えた。人間が手を加え保護するというよりも、人間が自然に干渉して数を減らしていること、そしてそれを皆が知り考えなければならぬと感じた。スナメリ以外の種についても、同じことが言える。

私達人間と動物との共生、干渉について、まずは理解することが必要だと感じた。私自身自然と触れた経験も乏しく実感が無かったが、実際に自然と触れ合うことで、それらの恩恵や暮らしについて改めて考えることが出来るのだと思う。このイベントのように、自然を身近に感じることは勉強以外でもそして誰にでも重要な経験になると感じた。

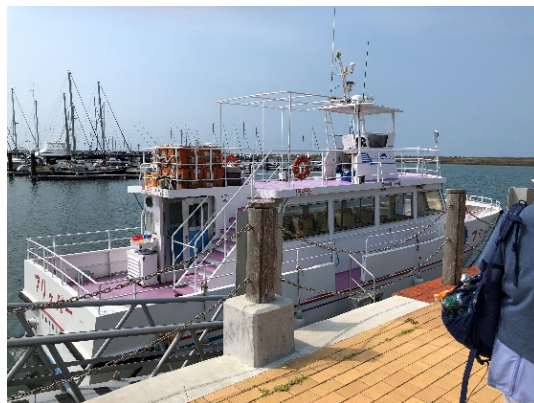


写真1 乗船した船

[たてものの中の化石を探そう]に参加して

このアンモナイトの化石はとてもきれいにすぐに見つけることができました。以前のイベントでレプリカを作ったアンモナイトのサイズと同じくらいだったので中生代のアンモナイトだとすぐわかりました。化石というのはどこか山奥まで行き、石などを削ってでもしないと発見できないようなものだと思っていましたが、そんなことはなく、街の中というとても身近な場所でも見つけられるのだと知ることができました。

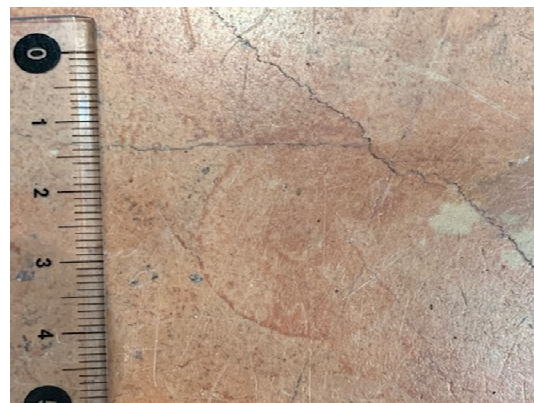


写真2 千葉市内のデパートのアンモナイト

[化石の模型を作ろう]に参加して

化石の模型をつくる機会は今後中々訪れないのでとてもよい時間をすごせた。自分の手で化石の形を作り上げることで細かい部分に注目することができた。模型は実物と同等の形をしたものでありながら壊してしまってももう一度作ることができる代物だということが理解できた。様々な体験をしないと世の中の知識が身につかないことに気づいたので博物館に自ら足を運ぶことは今までなかったが今後様々な博物館を訪れていこうと思った。



写真3 上が本物で下が模型